

平成 27 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	継続型
事業名称	人間発達科学専攻研究発表支援事業
取組代表者名	米田 俊彦
担当者名	人間発達科学専攻担当教員全員

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3 ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

「人間発達科学専攻研究発表支援事業」は、大学院学生の研究支援のモデルを構築することをねらいとしたもので、2011 年度で終了したグローバル COE 事業における教育プログラム委員会による学会発表支援事業を実質的に継承した 2013 年度の人間発達科学専攻研究発表支援事業を再開したものである。事業の具体的な内容は次のとおり。

1. 補助の対象は人間発達科学専攻博士後期課程在籍者（ただし 2012 年度以降の入学者に限る）とした。
2. 補助は、学会に発表するために要する往復の旅費および宿泊費（1 泊分）とした。ただし、上限を設定し、それを超える場合は上限の額とした。
3. 補助の金額の上限は、国外における発表は 1 件 10 万円、国内における発表は 1 件 4 万円とした（1 人の申請は 1 件）。
4. 補助対象者は、それまでの研究業績と予定している発表内容についての審査によって選考した。
5. 4 月に募集を行い、選考は 2 回行った（8 月までに開催される学会での発表については 4 月の募集の直後、9 月以降に開催される学会での発表については 8 月中に選考）。
6. 補助金を交付されて学会で発表した院生には、発表の体験談を提出してもらった。この体験談集を専攻の院生に配布した。
7. 補助を受けた金額は 47 万円で、その使用内訳は次のとおり。
 国内旅費（全 6 名）・・・184,000 円
 海外旅費（全 3 名：米国 2 名、韓国 1 名）・・・270,860 円
 謝金（事務処理等）・・・14,300 円
 物品（事務用品）・・・840 円

院生が遠隔地で開催される学会に発表するための費用を補助するという本事業は、院生の研究の進展に対して直接的に大きく寄与した。また、経済面だけでなく、この補助の獲得のために、院生は発表の準備を早めることになり、また発表の前に評価を受けることから、発表の内容が充実したものになることが大いに期待された。

なお、研究発表支援を受けた中村香理さんが米国フィラデルフィアで開催された 46th Annual Meeting of the Society for Psychotherapy Research で Lester Luborsky Student Poster Award third place を受賞した。この賞は、筆頭発表者としてポスターセッションに参加する学生の研究の中から、最も独創性のある科学的な実証研究におくられるものである。

補助を受けた院生とその発表学会、発表題目等は次のとおり。

氏名（入学年度：指導教員）	参加学会（日程：会場）	題目（発表形式）
1 田中直美 (2012：池田)	京都ユダヤ思想学会 (H27. 6/20-21：京都市同志社大学)	F. ローゼンツヴァイクにおけるユダヤ性の＜復元＞と翻訳の課題について～『イエフダ・ハレヴィ』のまえがきの検討を中心に（口頭）

2	田村恵美 (2014: 富士原)	日本生活科・総合的学習教育学会 (H27. 6/20-21: 福岡市福岡大学附属若葉 高等学校等)	総合的な学習における子どもの学習観の分析 (口頭)
3	中村香理 (2012: 井原)	Society for Psychotherapy Research ; SPR (H27. 6/24-27: 米国フィラデルフ ィア市University of Pennsylvania)	A task analytic study of corrective emotional experience: An initial model building from a pure goldsample (ポスター)
4	烏日吉木斯 (ウ リジムス) (2013: 浜野)	国際幼児教育学会 (H27. 9. 12-14: 韓国大 邱市大邱大学)	中国大都市における少数民族の就学前教育に ついての研究～北京市のモンゴル民族を事例 に (口頭)
5	大石彩乃 (2015: 大森美 香)	日本心理臨床学会 (H27. 9. 18-20: 神戸市 神戸国際会議場等)	問題解決アプローチとしての筆記表現法～被 援助志向性低群に着目して (ポスター)
6	野村朋子 (2015: 岩壁)	日本心理臨床学会 (H27. 9. 18-20: 神戸市 神戸国際会議場等)	心理臨床家自身が受ける心理療法について (口頭)
7	滝澤佳奈枝 (2014: 米田)	教育史学会 (H27. 9. 26-27: 仙台市宮城教 育大学)	日本統治期台湾の高等女学校における裁縫科 教育～台北州立台北第三高等女学校を例とし て (口頭)
8	吉岡三重子 (2013: 米田)	教育史学会 (H27. 9. 26-27: 仙台市宮城教 育大学)	明治後期における高等学校改革構想～『高等 普通教育』の制度化に着目して (口頭)
9	前村絵理 (2014: 小玉)	American Educational Studies Association (H27. 11. 11-15: 米 国テキサス州サンアントニオ市 Grand Hyatt San Antonio)	Paulo Freire and Universal Love in Liberation Theology: Focusing on the Symposium on Black Theology and Latin American Theology of Liberation in 1973 (口 頭)

2. 今後の取組み継続に係る実施体制及び資金確保の状況について

本経費は、学外の競争的資金等によるプロジェクトで、プロジェクト実施期間終了後も引き続き取組みを継続するための体制を整備するために配分されたものです。本経費の支援期間終了後の実施体制及び資金確保の状況について記述してください。

この取組みは、もともとグローバルCOEの事業であり、本学の機能強化方針を受けて人間発達教育科学研究所が創設されたので、来年度から同研究所の事業として継続することが決まっている。